



JAあそだより

平成22年 8月



鮎返りの滝(南阿蘇村=落差40m、幅6mの鋭く切り立った滝)

■今号16ページ主な内容

- JA阿蘇第9回通常総代会開催
- 小国郷家畜市場2ヶ月半ぶり再開
- 各生産部会で出荷査定会・総会行われる
- 農業体験事業、各地区で盛ん!



JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

JA阿蘇第9回通常総代会
口蹄疫に配慮し縮小して開催



阿蘇体育館で開催されました。

今回は口蹄疫予防のため、各総代には極力書面決議での出席を依頼すると共に、来賓者へも事前に出席を見合わせるよう要請し、口蹄疫拡大に対して万全の態勢で臨み、例年比べて縮小された総代会開催となりました。また、総代会開会前に執り行われていた恒例の平成21年度営農関係者や永年勤続職員表彰も、取り止めとなりました。

総代会には、総代437名(うち書面決議404名)が出席しました。室原昭博常務の開会の辞後、

中尾雄二組合長が主催者挨拶を行い、先ず、口蹄疫の拡大を考慮して例年と異なる総代会開催となったことを詫言いました。そして、昨年12月の第23回JA熊本県大会で採択された「熊本農業と地域の再生に向けた新たな協同の創造」の、①生産者と消費者を結ぶ地域農業の復権、②JAの総合性発揮による地域の再生、③協同を支えるJA経営の確立に言及し、新たな「JA阿蘇活動総合3カ年計画」(平成22年度～24年度)達成へ取り組む決意を述べました。

さらにJA阿蘇の経営基盤強化を図るため、組合員加入促進による増資などを要請し、昨今の目まぐるしく変化する社会状況下での組合員いっそうの団結と協同の必要性を強調し、JAが組合員の心のよりどころとして、ますます発展していくよう組合員、役・職員が一体となったJA創りを目指そうと訴えました。

議事では、議長に松本昭氏(西原村)を選任し、第1号議案から第7号議案など執行部から提案理由が述べられ、議案ごとに質疑応答が行われました。その結果、各議案及び附帯決議など全議案が原案通り承認可決されました。

総代会は午前11時16分、松村勝

美常務の閉会の辞で終了しました。(写真上)総代会会場と主催者挨拶を述べる中尾組合長。※当日、中止となった平成21年度表彰者のご氏名は3頁に掲載しました。

慶祝者23人を表彰
年金受給者連盟阿蘇支部総会



農林年金受給者連盟阿蘇支部は6月28日、阿蘇市で40人が参加して第34回通常総会を開き、2009年度活動報告や2010年度計画など全5議案を承認しました。原山勝同支部長は「特例年金制度の維持と受給者の生活安定を図る活動をはじめ、会員の加入促進・連盟組織の強化等を重点的に取り組んでいきたい」とあいさつ。10年度慶祝者として喜寿の12人、米寿の11人に表彰状と記念品を贈りました。また、来賓の中尾雄二組合長も「今後も健康に留意され、JA経営安定のためご支援をお願いします」と祝辞を述べました。

総会後は「年金制度をめぐる情勢」と題し、熊本県農林年金相談員の岡本正憲さんが政権交代後の公的年金制度をめぐる動きなどについて講演をしました。

(写真上)挨拶をする原山勝支部長

小国郷家畜市場
2カ月半ぶり再開

JA阿蘇小国郷家畜市場は7月21日、口蹄疫の影響で中止していた家畜市場を2カ月半ぶりに再開しました。再開にあたり、前日から関係者らが集まり、当日の消毒液散布方法などの打ち合わせを行い万全の態勢で臨みました。当日は、入場者全員に防疫服を義務付け子牛のセリを行いました。今回の頭数は83頭で、あか牛雌平均28万9086円、あか牛去勢平均32万6700円、黒牛雌平均32万3050円、黒牛去勢平均42万67388円で落札されました。畜産課の佐藤正課長は「肥育農家の畜舎が空き、子牛補充の影響でやや強めの販売となったことは「ほっと」している。しかし、口蹄疫の完全な安全宣言はまだ。この地域で絶対に発生しないよう今後も厳重に警戒することを引き締めました。」と気を引き締めました。

(写真上)挨拶をする原山勝支部長

小国郷家畜市場再開で、入場の車には消毒液散布



J A阿蘇のオリジナル商品「まるごと阿蘇のみそ」完成

地域農業の活性化と農産物の消費拡大につなげようと、J A阿蘇がオリジナル商品として開発を進めていたみそが完成し「まるごと阿蘇のみそ」と名付けられました。みその原材料には阿蘇産を使用したこだわりの逸品です。米は阿蘇山麓で生産された特別栽培米「コシヒカリ」と「ヒノヒカリ」を使用。大豆は「フクユタカ」、大麦の「ニシノホシ」も阿蘇産を使い、県内メーカーの協力を得て今年3月から仕込みと製造を始めていました。このほど2カ月かけて熟成し、ふん

役員と対話集会開く J A阿蘇青壮年部・女性部

「J Aの運営に参画しよう」とJ A阿蘇青壮年部と女性部は7月14日、阿蘇市の旅館つるやで関係者ら約30人が参加し、対話集会を開きました。最初に倉岡誠喜青壮年部長が「J A阿蘇の未来が明るくなるような対話集会にしてほしい」とあいさつ。自己紹介をした後、質疑応答に入り、青壮年部からは今後の販売方法などについて、女性部からは職員教育などについて

わりと甘く素朴な味わいの米麦合わせみそが完成。試食した関係者は「甘みが出て、とてもおいしく熟成されている。毎日の食事に使ってもらえる商品になれば」と期待を寄せています。価格は5kg入り2100円と3kg入り1323円で販売を予定しています。



（写真）「まるごと阿蘇のみそ」写真は3kg入り

ての意見交換が活発に行われました。最後に中尾雄二組合長は「青壮年部、女性部は今後のJ A阿蘇を担ってもらう存在。J Aのことを勉強してもらい、積極的にJ A運営に参画して頂きたい」と語っていました。



平成21年度表彰者

■営農関係者

- 農産(米) 津留 康彦(南部地区)
- 農産(大豆) 阿蘇町大豆生産組合代表 内田 孝昭(中部地区)
- 農産(米) 上野 直吉(小国郷地区)
- 園芸(大根) 明里 忠行(小国郷地区)
- 園芸(キャベツ・馬鈴薯) 古澤 国義(中部地区)
- 園芸(キャベツ) 後藤 賢治(南部地区)
- 畜産(繁殖牛) 岡本 康雄(南部地区)
- 畜産(肥育牛) 河瀬 憲雄(中部地区)
- 畜産(酪農) 杉本 正雄(小国郷地区)
- 共済契約高額者 酒井 健一(西原中央支所管内)
- 鶴野 武輝(阿蘇町中央支所管内)
- 梅田 修(白水中央支所管内)
- 永年勤続者(職員30年) 志賀 惟光 一の宮農機センター
- 山内今朝重 監査室
- 北里 卓也 小国郷中央支所

- 河津 篤 小国郷中央支所
- 穴見 優子 小国郷中央支所
- 高宮 浩一 営農部
- 野尻 範仁 野尻支所
- 時松 誠也 総務部
- 坂梨 英俊 金融共済部
- 北 淑子 事務電算室
- 井野 隆 営農部中部地区
- 中島佐代子 阿蘇町中央支所
- 永年勤続者(職員20年) 市原 純一 南部農機車輛センター
- 栗焼三千生 白水中央支所
- 小島 多美 事務電算室
- 阪本 忠之 白水中央支所
- 藤田 武史 阿蘇町中央支所
- 行部 浩 営農部小国地区
- 梅木 賢司 小国郷中央支所
- 小林 勝人 高森中央支所
- 原部真寿美 事務電算室
- 後藤 美香 高森中央支所
- 藤崎 秀也 営農部南部地区
- 出口 創平 営農部小国地区

〔中部園芸部会〕
事業計画、役員改選等を承認



J A阿蘇中部園芸部会は6月4日、2009年度第9回総会を阿蘇市で開き、20の専門部会役員やJ A関係者ら43人が出席しました。

若下明部会長はあいさつで、「昨年度を振り返ると安値安定と、生産農家は厳しい年だったが、今年は野菜の値段も高騰しており、これからの所得向上につながるよう願っています」と述べました。

議事では09年度実績や10年度の事業計画、役員改選等7つの議案が承認されました。

写真上：あいさつをする若下明部会長

〔蘇陽地区〕

夏秋野菜合同出荷査定会
販売額1億2千万円を計画

J A阿蘇南部管内の蘇陽地区で7月2日、生産者ら100人が

参加して2010年度夏秋野菜合同出荷査定会を行いました。同地区では一人の生産者が多品目の出荷を行っていることなどもあり、野菜共販運営部会が例年、合同で出荷査定会を行っています。

査定会に先立ち、町英明運営部会長が「肥料価格の値上げなど農業情勢を取り巻く環境は厳しくなっているが、良い品物を作って消費地に安定供給が出来るよう頑張ります」とあいさつしました。また、市場関係者からは「阿蘇のブランドは他産地に負けておらず、今後も安定供給に力を入れてください」とエールが送られました。しかし、生産履歴の確実な記帳やポジティブリストに対する再確認など「安全性」を重視する声も聞かれました。



査定会では、サイインゲンなど6品目の出荷規格の説明が行われました。同地区では6品目で出荷数量500t、販売額1億2千万円を計画しています。

写真上：出荷規格を確認する生産者

〔南部園芸総合部会〕
「生産者とJ Aが一体となった産地作りを」

J A阿蘇南部園芸総合部会(二子石富士夫部会長)は、7月12日第17回南部園芸総合部会総会を南阿蘇村で開きました。当日は各園芸部会の部会長など約50人が参加し、2009年度事業報告など2議案が承認、可決されました。

二子石部会長は「J Aへ生産者の気持ちや伝わっていない。各部会長にも活発な意見を言ってもらい、J Aと生産者が一体となつて、この苦境を乗り越えたい」とあいさつしました。出席した各部会長からは、品目ごとの問題点やJ Aの販売方針についての意見や提案が飛び交いました。部会では2010年度についても、安全・安心な農産物を消費地に届けることを確認し、防除履歴の記帳を徹底することや残量農薬検査を定期的

に実施し、必要に応じて先進技術

の視察研修なども計画に入れていくことなどを決めました。

写真左：あいさつをする二子石部会長



〔中部キュウリ部会〕
販売額4千500万円を計画

中部キュウリ部会は7月16日、J A阿蘇一の宮中央支所で、生産者やJ A・市場関係者など約30人が参加し、2010年度産キュウリ出荷査定会を開きました。

立山崇章部会長は「去年の安値安定ではなく、シーズンを通しての高値安定を目指し、関係機関のご協力を頂きたい。査定会の説明を生産者各位がよく遵守し、出荷

して頂きたい」とあいさつしました。続いて各市場より情勢報告が行われ、出荷計画・利用料金・持ち込み要領について、販売担当の大串洋介職員より説明がありました。

10年産出荷計画は、面積2.1ha、前年対比90%、出荷数量4万ケース（1ケース5kg）、前年対比112%、販売計画4千500万円、前年対比139%を計画しています。

主な出荷先は九州内の各市場及び地元消費拡大を計画し、地元スーパーなどに出荷予定です。写真左「あいさつをする立山部会長」



夏秋キュウリ11月下旬まで出荷



阿蘇市管内では6月上旬から11月下旬まで夏秋キュウリの出荷が行われています。中部キュウリ部会員の市原伸博さんは、初出荷にあたっての感想を「定植後、夜温の低下や安定しない温度で出荷が遅れることが心配されたが、昨年とほぼ同日の出荷となった。キュウリを30年作っているが、毎年変わらなずともうれしく、ほっとしている。今後、病害などに全神経を集中し、栽培にはげみたい」と、笑顔で話していました。

また、指導員の井手友和職員は「長期間の作型だが肥培管理を十分に指導し、10a当りの収量を10t以上生産したい」と抱負を語っています。

中部キュウリ部会では、主にブルームレスとブルームの2種類のキュウリ栽培を行っており、ブルームレスは地元市場を重点に、ブルームは福岡の生協へ出荷をしています。

（小国郷キュウリ部会） 小国郷で夏秋キュウリ巡回講習会 販売高2億8千万円を計画

小国郷キュウリ部会は7月5日、久留米原種育成会の添島久輝氏とJA阿蘇小国郷の長谷部指導員を講師に迎え、同部会員3人の園場で夏秋キュウリの巡回講習会を行いました。生産者は高品質なキュウリ栽培に向け、品種の特性・病害虫対策などについて講師の話に熱心に聞き入っていました。

日野徳光部会長は「ここ数年、梅雨時期の豪雨による被害で頭が痛い。路地栽培をする上で避けて通ることができないが、品種の特性をよく理解し、適切な栽培や早期防除の徹底を行い、消費者の食卓に1本でも多くの小国郷産キュウリを



届けたい」と抱負を語っていました。小国郷キュウリ部会員は89人で、栽培総面積25ha、目標数量18万ケース（1ケース5kg）、販売高2億8千万円を計画しています。

写真上「巡回講習会で講師の話聞く生産者の皆さん」

熊日新聞の「くまもとめぐりん」 河津 徹さんの夏秋キュウリを取材



JAグループ熊本「くまもとめぐりん」の取材が6月20日、南小国町の河津徹さんのハウスで行われました。河津さんは夏秋キュウリ（ハウス10a、露地20a）を中心として水稲・椎茸・繁殖牛の複合経営を行っています。

当日は合志市より読者リポーターの鏡さん一家（鏡さん夫婦と娘の咲希ちゃん）が河津さんのハウスを訪問。まず、河津さんからキュウリについての説明を受けた後、収穫

※前頁より続く

体験をしました。キュウリが大好きという咲希ちゃんも早速大きくなってます。キュウリをはさみを使って収穫すると「上手にできた」と笑顔で喜んでいました。

収穫後は、河津さん宅でキュウリを使った料理を頂きました。鏡さん夫婦は「実際に自分たちの手で収穫し、農業の大変さ、大切さを知った後では、お店で買って食べるキュウリとはおいしさが違います」と話していました。

この「くまもとめぐりん」は7月28日の熊日新聞に掲載されました。



河津さん親子



読者リポーターの鏡さん一家

【中部トマト部会】

夏秋トマト生産者144人で
販売額9億8000万円見込む



J A阿蘇中部トマト部会は6月10日、一の宮中央支所で生産者やJ A・市場関係者など約150人が参加し、2010年産トマト出荷査定会を開きました。

渡辺利幸部会長が「部会員のみなさんが10a当たり10t出荷すれば、計画を達成できます。11月下旬まで頑張らしましょう」とあいさつ。

10年産生育状況報告について指導員からは「3月下旬から4月にかけて天候不良(降雨・低温)により育苗期に生育の遅れ、一部病害の発生が見られた。5月上旬から本格的に定植となり、その後好天

に恵まれ草勢、着果とも順調な生育をしている」と報告があり、次に各市場より情勢報告がありました。続いて出荷計画、利用料金、持ち込み要領について、販売担当より説明が行われました。

今年度は作付面積33.7ha(前年対比100%)、生産者144人(前年同)、出荷計画82万ケース(4kgケース)で9億8千万円の販売金額を見込んでいます。

(写真)150人が参加した出荷査定会

阿蘇高原夏秋トマト 11月下旬まで出荷続く



阿蘇市管内では6月初めより夏秋特産トマトの出荷が始まっていますが、阿蘇市一の宮町の田島重成さんは「今年で5年目を迎え、トマトの栽培に自信も出てきた。病害などを出さないように、肥培管理を徹底し、11月下旬まで出荷を続けたい」と抱負を語っています。収穫物はしし2し中心で玉太りも食味も良好です。

【中部ミニトマト部会】 前年販売高の1割増し 3500万円を目指す



J A阿蘇中部ミニトマト部会は、サンチェリーピュアを2haで栽培し、日量300ケース(1ケース3kg)を九州管内に出荷しています。

同部会は宮下邦夫部会長をはじめ部会員全員がエコファーマー認定者で、有機質肥料や減農薬栽培を積極的に行い、安全・安心なミニトマト生産に日々努力を重ねています。

指導員の平野伸太郎職員は「出荷量は順調に伸び、品質・食味にも自信があるが、長雨の影響で先が細まっている。今後は樹勢回復に努めていきたい」と語っていました。出荷は霜の降る11月までの長期戦で、昨年販売高の1割増しの3500万円を目指しています。

(写真)出荷検査の様子

〔南部トマト部会〕
目標販売高5億1000万円
年々高まる市場評価



南部トマト部会（長尾睦雄部会長）は6月14日、生産者や県・市場・JA関係者ら約100人が参加して、2010年度南部トマト部会出荷査定会を行いました。

長尾部会長が「この産地にも負けない高品質のトマトを作り、安全安心の美味しいトマトを消費者へ届けたい」とあいさつしました。

今年も定植後の冷え込みや曇天の影響があり、生育遅れが懸念されましたが、果実の肥大、食味は例年以上の出来となりました。村上洋二朗販売担当職員は「今年も美味しい阿蘇トマトを消費地に自信を持って届けられる」と力強く話していました。同部会では、圃場ごとに土壌分析を行い、その結

果に応じて必要な量だけを施肥することで、無駄なコストがかからないようにしています。

出荷は6月中旬より南部野菜センターで始まっており、同施設は2005年に新設された施設でカラーセンサー付の選果機を導入しており、高度な選果・規格の均一化による高品質なトマトの出荷で年々市場評価が高まっています。

2010年度作付面積は21.5ha（前年比96%）、栽培戸数70戸（同96%）で、出荷数量1700t、販売高5億1000万円を計画しています。出荷日量は800〜1000ケース（1ケース4kg）で、県内市場を中心に12月まで出荷されます。

（写真上）あいさつをする長尾部会長、写真左＝箱詰め作業をする作業員



〔白水ミニトマト部会〕
阿蘇ミニトマト出荷
8〜9月がピークに



JA阿蘇南部地区の白水ミニトマト部会（足立輝幸部会長）では、6月中旬より2010年度産ミニトマトの出荷が行われています。連日、南部野菜センターには生産者がバック詰めしたミニトマトが持ち込まれ、県内の市場を中心に出荷が行われています。現在の出荷数量は、日量100バック（1バック200g）程度となつてい

ます。販売担当の村上洋二朗職員は「最初、生育は遅れていたが、現在は順調な生育をしており、味と品質はどの産地にも負けない自信がある」と今年の販売に期待をしています。

白水ミニトマト部会は、過去に県野菜振興協会より団

体功労賞を受賞しており、長年に亘り高品質の商品を出荷し、市場よりも高い評価を得てきました。本年度は栽培者19人（前年比82.6%）、栽培面積5.4ha（同98%）、出荷数量220t（同101%）。8月〜9月をピークに11月まで出荷を予定しています。品種構成はキャロクイーン（77%）、サンチェリーピュア（23%）となつています。

（写真上）ミニトマトの品質チェックを行う職員

〔南部ナス部会〕
5500万円の売り上げを予定

JA阿蘇南部ナス部会（吉良山友二部会長）は6月11日、2010年度出荷査定会を高森中央支所で行い、生産者ら約50人が参加しました。

本年度の出荷は5月中旬より始まっていますが、当日は本格的な出荷を前に各等級や出荷要領の確認を行いました。

査定会を前に、吉良山部会長が「昨年度よりもヒゴムラサキのブランド確立に力を入れていきたい。そのためには生産者一人一人の力が必要なので、部会が一丸となって販売促進に協力して欲しい」と力強く話しました。

※前頁より続く

また、JA担当者も一年々、秀品率と収量は上がっており、消費地からの問い合わせも増え、今後の販売に期待している」と述べました。

査定会では市場関係者とJA販売担当者が一緒になって等級の確認を行い、「売れる商品作りを意識して毎日出荷してもらいたい」と話していました。今年は12月まで出荷計画を立てており、4万3千ケース（1ケース7kg）、5500万円の売り上げを予定しています。



写真右側生産者、JA職員及び市場関係者

による等級の確認、

写真下側生産者から説明を受ける

参加者



「ヒゴムラサキ」生産者 消費者との交流会を実施

南部ナス部会は6月12日、高森町で消費者との交流会を開きました。同イベントは大手食品メーカーが企画。消費者と生産者が交流し、その野菜を使用して昼食を自分たちで作ることを目的としています。当日は福岡市より20名（2名1組）の参加があり、先ず生産者から収穫の方法やハウス内での注意事項などを聞き、各組4本ずつ収穫体験する作業に入りました。この収穫体験で「面白い形」や「二番重いもの」などを選ぶコンテストを実施したところ、一番重いものでは約800gのものがありませんでした。昼食は生産者と一緒に「ヒゴムラサキ」を使った料理などを作り、交流を深めました。



「ヒゴムラサキ」袋詰め 都市圏での販売拡大ねらう

南部ナス部会では、2010年度より都市圏に向けての特産「ヒゴムラサキ」の袋詰め出荷を始めました。同部会では、昨年より東京・名古屋・福岡などの都市圏への販路拡大に力を入れており、有利販売に繋がるとして1本の袋詰めを試験的に行っていました。6月は梅雨の影響もあって一時的に数量が減少しましたが、日量全体の約8%（500本程度）が袋詰め出荷され、市場からの評価も高まりました。



「ヒゴムラサキ」は7年前から高森地区の特産品として導入され、果肉がとてみ軟らかく、果物のようにそのまま食べることができ、調理しても他の野菜類に紫色が移らず仕上がる調理しやすいナスとして、年々市場や消費地の評価は高くなっています。

「ヒゴムラサキ」慣らし会 徹底選別で選ばれる産地」を

南部ナス部会は7月16日、2010年度第1回「慣らし会」を高森集荷場で行い、生産者ら約20人が参加しました。例年、同時期になると単価が低くなる傾向にあり、高値から単価が下がるのをいかに食い止めるかを話し合いました。目慣らし会を前に吉良山部会長が「部会一丸となって選別の強化に協力してほしい」と訴えました。その後、販売担当の上田裕樹職員が出荷開始時に確認した等級の現物確認及び箱詰めする際の注意点などを説明しました。JA担当者は「単価が下がる時期に、選別強化をすることで、消費地より選ばれる産地となっていきたい」と今後の意気込みを語っています。



出荷規格の説明を行うJA担当職員



JA阿蘇高森地区で7月20日、熊本放送(RKK)テレビ番組「旬感アグリ」(7月26日午後7時55分より放送)の撮影があり、高森特産の「ヒゴムラサキ」を紹介しました。

当日は高森集荷場で荷受・検査風景などを撮影し、吉良山友二部会長のハウスへ移動。吉良山部会長は良質な「ヒゴムラサキ」を作るための栽培管理等話をしました。

(写真IIハウスでの撮影風景)

【高森特産「ヒゴムラサキ」
テレビ取材でPR】



白水メロン部会(後藤孝俊部会長)は6月11日、地元農産物PRの一環として熊本県庁で「メロン試食宣伝会」を実施しました。この企画は例年行われており、当日は生産者ら10人が参加。70玉程度を1玉4000~5000円で販売し、2時間程度で完売しました。

白水メロン部会は、ポジティブリスト制度を遵守するとともに、消費者の手に渡っても生産者が特定できるように生産者番号入りのシールを1玉ずつ貼って出荷しています。

(写真II大好評だったメロン試食宣伝会)

【白水メロン部会】
熊本県庁で「メロン試食宣伝会」】

今年度は定植は順調だったものの、その後、一時的に低温の影響があり生育はやや遅れ気味でしたが、交配時期の5月から6月にかけて天候に恵まれたこともあり、糖度も15度以上と例年にならない品質となりました。

7月中旬頃までに日量500~600ケース(1ケース4kg)が出荷されました。

(写真II検査作業に追われるJA職員)

高森メロン部会の赤肉メロン「レノン」の出荷は、6月に最盛期を迎え、JA阿蘇管内の平坦部から始まったリレー販売の最後を締めくくりました。高森地区では、他産地との違いを出すために赤肉メロンの生産に力を入れており、年々市場評価は高まっています。



【高森メロン部会】
赤肉メロン、7月中旬で
出荷終了】



販路拡大へさらなる期待が高まるソフトトレー出荷

南部イチゴ部会(山辺達也部会長)は6月10日、09年産イチゴの出荷を終了しました。今年は5月上旬からの天候回復等で、小玉果階級になる時期が早かったこともあり10日早めに終了しました。

また、昨シーズン終わりから取り組んだソフトパックでの出荷については、昨年の課題に対しての改善策を事前立てていたことで、安定して消費地に届けることができ、その結果レギュラーとの単価差が120~100円高での取引が行われ、次年度への更なる販路拡大に期待が高まりました。しかし、担当者は「粒揃えや品質の安定化などに課題が残るので、生産者と市場・仲卸関係者が協議する場を増やしていきたい」と今後の課題を語っていました。

【南部イチゴ部会】
2009年産イチゴ出荷終了
ソフトトレー出荷、高値で取引】

南部イチゴ部会出荷反省会 「細やかな対応できる産地へ」



南部イチゴ部会では7月13日、南阿蘇村で2009年度出荷反省会を開きました。

出荷反省会に先立って、阿蘇地域振興局農業普及・振興課の藤本嘉世技師より、ハダニの天敵防除による試験結果の報告があり、出席した生産者からは「天敵を入れることで、作業面での負担軽減になることは良いのではないかと、今後の栽培での導入に意欲を示していました。」

出荷反省会ではプロジェクトを使って、09年度の出荷実績や市場からのクレーム写真などを生産者に見せ、次年度に向けて改善すべき点について説明が行われ

ました。また、担当職員からは「単価の取れる販売アイテムの導入と消費地の声をしっかりと聞いて応えていきましょう」と、次年度販売取組についても説明がありました。

09年実績は、出荷数量前年比96%、販売金額同98%、平均単価同102%となっています。

同部会では、一昨年よりソフトトレーによる出荷など、単価アップの取れる商品作りを行っており、出荷反省会では次年度に向けて、活発な意見が飛び交っていました。
(写真上)実績報告をするA担当職員

部会目標

「変化への迅速な対応、基本の徹底」 II 南部イチゴ部会総会

南部イチゴ部会(山辺達也会長)は7月13日、南阿蘇村で第19回総会を開きました。当日は生産者ら約50人が出席し、2009年度事業報告など5議案が承認されました。また総会に先立ち09年度優秀者への表彰が行われました。

山辺部会長は「時代の流れが1昔より速くなっているので迅速に対応し、確実に単価の取れる産地を目指しましょう」とあいさつし、様々な販売アイテムへ部会全員で

参加していくよう訴えました。出席した生産者からは、部会役員の産地研修や今後の部会運営について意見が出され、2010年度の基本方針に沿って様々な部会事業を行うっていくことを確認しました。併せて部会目標として3点をあげ、「変化への迅速な対応、基本の徹底」と「消費地の声は天の声」とし、時代の流れを掴み、消費地で単価のニーズに応える販売アイテムへの取組をさらに強化する意向を示しました。

同部会では、販売アイテムの先進産地研修も行っており、3年前より関西地区へ市場視察した際に、徳島・香川県などの先進地に足を運び部会役員の意識改革を行っています。(写真)優秀者表彰を受ける部会員



(中部イチゴ生産部会) 反省会・総会を開催 「収量重視より品質重視で」



中部イチゴ生産部会は7月22日、2009年産反省会及び総会を阿蘇市で開き、部会員やJA関係者ら約50人が出席しました。

09年は、前年に比べ農家戸数は同数で栽培面積99%、出荷数量91%、販売金額92%、平均単価101%と前年並みの実績を上げました。山本誠也部会長はあいさつで「収量重視ではなく品質重視であり、春先のクレームも各個人対応で徹底できた」と話しました。

指導員の浅久野衛職員から今年度の反省点や問題点、次年度へ向けた改善点の中で「1、2月の

天候不順により、3月の出荷量が大幅に減ったことが全体収量減の要因となった。次年度へ向けて徹底した温度管理を指導して行きたいと説明がありました。09年産の表彰も行われ6名の方々が受賞しました。

▽秀品率部門＝蔵原和久・西村圭三・坂梨秀幸▽反収部門＝橋本堅・井野耕児・小野龍臣
 (前頁写真＝成績優秀者表彰の様子)

〔小国郷朝どり市〕 高冷地夏イチゴ 試験栽培へ

小国郷朝どり市は、高冷地阿蘇小国郷の気候に適した新規作物を推進する県の育成品種である「夏イチゴ」の試験栽培に取り組んでいます。夏イチゴは収益性が高く、安全安心や鮮度の点からも国内需要の拡大が見込まれており、遊休ハウスを効率的に利用できるこ



とも期待されています。生産者の二田水宏一さんは「予想以上の大玉で食味が良い」とにびつくりした。高冷地阿蘇小国の夏イチゴが消費者に喜ばれ、夏イチゴが定着できるよう頑張りたい」と、抱負を語っています。
 (写真上＝初出荷を迎える夏イチゴと二田水宏一)

〔ピーマン部会〕 夏秋ピーマン出査定会 ロット数確保で有利販売

J A阿蘇ピーマン部会(宇藤虎夫部会長)は7月16日、2010年産出荷査定会を山都町で開き、生産者ら約70人が参加しました。今年度は定植後も気温低下や夜温確保が不十分だったことから、生育は遅れ気味となり、7月中旬時点で例年の半分程度の出荷量となっています。

宇藤部会長は「長雨が続き、生育の遅れや病害虫の発生が心配されたが、最後まで諦めずに頑張ってもらいたい」とあいさつしました。

ピーマン部会は昨年、高森と蘇陽地区の部会が統合し、一元販売を行っています。販売担当職員は「ロット数が確保できることで、有利



販売にもつながる」と今後の販売に期待しています。今年度の作付け品種はハウス栽培で「京ゆたか」、露地で「かがやき」と「さらら」の3品種です。一部で昨年同様、耐病性品種である「京ひかり」を作付けし、生育状況及び収量性を見ながら品種選択を次年度は行う予定です。指導担当の後藤真智職員は「昨年より生育は遅いが、品質は良好。今後は、個々の生育状態を確認しながら指導していきたい」と話しています。今年度の作付面積は南部地区全体で約7ha(前年比100%)、12月まで九州地区を中心に約500tの出荷を予定しています。(写真右＝出荷規格を確認する生産者ら)

福本孝生さん白水地区で 神秘的な「るり玉」を栽培

白水地区の福本孝生さんは、昨年より九州ではほとんど栽培がされていない「るり玉」を8aで栽培、6月中旬頃から出荷を始めました。同品種は北海道などが主産地で、鮮やかなブルーを出すためには降水量が少なく、冷涼な気象条件が必要です。

この「るり玉」はアレンジメントに必要な花でドライフラワーとしても利用でき、市場の需要も高くなっています。販売担当者は「阿蘇の気候を生かせば、どの産地にも負けない青色が出る」と自信ももっています。出荷先は九州管内へ4500〜5000本程度です。(写真＝神秘的な青い花るり玉)



〔長陽花卉部会〕
花束の名脇役「スターチス」



長陽花卉部会(荒牧文博部会長)では、宿根スターチスの出荷が6月最盛期を迎えました。この宿根スターチスは枝が密に分枝し、小花を無数につけるので花束やアレンジメントの脇役として欠かせず、ドライフラワーとしても使用されています。

同地区の栽培面積は40haで、品種は宿根スターチスの「ブルーフアンタジア」と「ムーライト」の2品種。特徴は長期間にわたって収穫可能で、長い株で15年程度栽培できます。荒牧部会長は「手間はかかるが、この鮮やかな青色を多くの人に見てもらいたい」と話しています。最盛期には日量1600〜2000本程度が鹿児島市の市場へと出荷されました。

(写真＝出荷作業に追われる荒牧さん)

〔りんどう部会〕
阿蘇高原りんどう立毛品評会

J A阿蘇りんどう部会の年一回の「阿蘇高原りんどう立毛品評会」が6月23日、一の宮町の草地区で行われ、県普及指導課・経済連・生産者・J A関係者ら20人が出席しました。品評会では各圃場の1〜3年生の早生系りんどうの立毛内容・圃場の様子・管理状況・病害虫の発生状況等を採点し総合的に審査しました。

笹原祥樹指導員は「全圃場を審査したが、例年に比べ気温が低く生育が若干遅れ気味だが、病害虫等の発生も目立たなく、今後の出荷が楽しみ」と話していました。

りんどう部会(部会員数9人)では栽培面積6.4haで、100万本の出荷を計画しています。出荷先は九州管内を中心に11月下旬頃までとなっています。(写真＝品評会の様子)



〔西原里芋部会〕
消費宣伝を軸に販路拡大を



西原里芋部会(永田悦郎部会長)は7月2日、西原村で2009年度総会を開きました。総会には生産者ら40人が出席、09年度事業報告など2議案が承認されました。また総会に先立ち、販売高部門など3部門の成績優秀表彰が行われました。

今年度は末端消費が伸び悩んだことで販売が苦戦する場面が見られましたが、生産者一丸となつて高品質の「里芋」出荷の規格会議や講習会に加えて、消費宣伝活動や消費地における消費状況把握を行いました。

計画対比は前年度を下回りましたが、次年度は選別強化による品質向上や加工用出荷への取組などを基本方針にあげ、次年度の販売に期待がかけられています。

09年実績は出荷数量391t

(前年比86%)、販売金額6090万円(同86%)、平均単価155円(同99%)。尚、成績優秀表彰者は次の方々です。(敬称略)▽販売高部門(J A表彰)1位＝東直人、2位＝東洋一、3位＝東武 ▽計画出荷部門(部会表彰)1位＝志内信二、2位＝須藤日出明、3位＝藤森徳次(写真上＝成績優秀者の表彰)

高冷地ユズ検討会を開く
JA阿蘇小国郷ユズ生産者



J A阿蘇小国郷は7月15日、小国町と南小国町で高冷地ユズ検討会を開き、生産者やJ A関係者ら約20人が参加しました。現地検討会では摘果方法・病害虫防除などについて、実演を交えての説明が行われ生産者は熱心に聞き入っていました。営農指導員の橋本健太郎職員は、「産地としては県内でも小さな産地ではあるが、品質では高い評価が得られるよう頑張りたい」と話していました。

(写真＝ユズ検討会の様子)

〔西原甘藷部会〕
地元特産「甘藷」の創作料理を
研修先ホテルの料理人に依頼

西原甘藷部会は「JA持参地消
ツアール」と称し、「自分たちが生産し
た甘藷を研修先のホテルで、プロの
料理人に作ってもらい食べよう」と、
農協観光熊本支店との共同企画で
3品の創作料理を試食しました。昨
年7月に続き今回が2回目です。

西原甘藷部会は7月13日から2
日間、天草・長崎県などを視察。宿泊
先である「稲佐山観光ホテル」に事
前に甘藷を送り、夕食メニューの一
部として「甘藷の海老揚げ」「甘藷
の岩石流し」「甘藷博多」を同ホテル
の料理人に作ってもらいました。早
速試食した部会員は「こんな甘藷料
理は初めて食べた」など、昨年同様
に好評を得ました。担当の西村友一
職員は「販促活動で試食してもらえ
るような簡単な料理もできたらと
いう意見もあるので、農協観光と検
討して実施したい」と話しています。



甘藷の海老揚げ



甘藷の岩石流し



甘藷博多

地元食材で暑い夏を乗り越えよう
女性部「夏の料理講習会」



7月28日、地元食材を生かした
「夏の料理講習会」が南阿蘇村で
行われ、JA女性部の白水・長陽・
久木野支部から約20人が参加し
8品を調理しました。この料理講
習会は部員同士の交流の場にな
ればと、夏と冬の年2回行われて
います。食材には地元野菜が使わ
れ、担当職員は「この講習会で腕に
磨きをかけ、暑い夏を乗り越えて
ほしい」と話していました。当日は
農繁期に手間がかからず調理でき
る食材で、現在、県産米の消費運
動として販売されている「冷凍炒

飯」を試食しま
した。試食の結
果は好評で今後
の販売に大いに
期待が持てそう
です。(写真右：調
理をする部員の皆さん)

女性部3支部合同役員会議で
ガス器具実演講習会も行う

JA阿蘇女性部3支部（白水・
長陽・久木野）の合同役員会議が
7月12日、白水中央支所で行われ、
ガス器具実演講習会も併せて実
施されました。この講習会の目的
はJAが取り扱うLPガス・LP
ガス器具の安全性及び24時間集
中監視システムの優位性を利用
者に再認識してもらい、安全・安
心なLPガスをPRすること、
昨年に続き2回目です。

また、講習の間にはグリルでゆ
で卵を作る実演等も行われ、真剣
な眼差しで受講していました。
(写真：真剣な眼差しで受講する女性部役員)



「女性部の輪を広げよう」
3支部合同で健康教室



JA阿蘇女性部白水・久木野・
長陽支部では、地区の範囲を超え
ての交流を目的に3支部合同で6
月23日より2010年度健康教室
を始めました。当日は家の光協会
講師の萬野保子氏を迎え、部員25
人参加のもと音楽に合わせて健康
体操などを行いました。参加者は
「農作業では使用しないような動
きもあり、楽しく体操ができた」
と話していました。

(写真：健康体操をする女性部員)

「水田お助け隊」が始動
 南阿蘇村地産地消費
 推進協議会

阿蘇の雄大な自然を背景に、J A阿蘇南部地区では2010年度より新たな取り組み「水田オーナー制度」が始まりました。



オーナー制度は全国各地で行われていますが、南阿蘇村地産地消費推進協議会が立ち上げた制度は①「バリエーション豊かな水田で、秋は紅葉を楽しめる棚田や手植え、機械植えなど自分が思うようにできる」こと。②「低参加費であること」です。

同制度はイベント型ではなく、オーナーと農家が交流しあうことで将来的にはお互いに連絡のやり取りをすることを目的としています。今年65家族と2企業の参加申し込みがありました。

「水田お助け隊」の参加条件は、①田植えと稲刈り時期に同村の水田まで来られる方。②参加費用100㎡(30坪)＝1万8千円(税込)が1口。収穫後、1口当たりお米40kgを贈呈。詳細についてはインターネットで「水田お助け隊」と検索。または南阿蘇村役場農政課まで。

耕作放棄地事業2年目に突入
 青壮年部高森支部

青壮年部高森支部は6月16日、高森中央小3年生51人と同町の圃場15aに大豆の種まきをした。前日の総合学習で大豆の栽培方法や大豆を使った製品などの授業を行い、昨年栽培した同小4年生から地大豆「みさを大豆」の種を受け継ぎ、今回の種まきとなりました。

子供たちは青壮年部から説明を聞き、1粒ずつ丁寧に植え約1時間で作業を終えました。この取り組みは県の「子供たちによる耕作放棄地再生モデル事業」で、今年で2年目を迎えます。

写真＝青壮年部の指導で大豆をまく子供たち



「まるごとおそつ子スクール」
 農業体験やキャンプで交流深める



7月21・22日、産山村のヒゴタイ公園キャンプ場で「まるごとおそつ子スクール」のキャンプがありました。32人の参加者は最初に井正昭さんのハウスでほうれん草の収穫体験を行い、キャンプ場に到着後、各班に分かれてオリジナルTシャツ作りをしました。夕食作りは女性部と一緒に、その後はキャンプファイヤーとなりました。

翌日はキャンプ村周辺を散策して、珍しい植物やキノコを見つけたりしました。

高校生、J A・SSで職場体験
 好評だった初々しい接客ぶり

「いらっしやいませ」「ありがとうございます」とうございました。J A阿蘇一の宮SSで地元高校生が職場体験を行い、初々しい接客ぶりを披露。思わぬサービスにドライバーの頬もゆるんでいました。阿蘇中央高校では「高校生の職業意識を育成し、適切な職業選択と職業観・勤労観の向上を図る」ことを目的に「就業体験学習」を実施。7月7～9日の3日間、一の宮地区のコンビニや保育園などで2年生89人全員による体験学習が行われました。そのうちの一人、井手亮太郎君はガソリンスタンド業務を体験するため、



一の宮SSで午前8時30分から午後4時まで店頭に立ちました。井手君は「車が好きで、特にJ A・SSで体験をしたかった」と、車の窓拭きや灰皿清掃、洗車機を通った車の拭き上げ作業など、給油所長の指導のもと懸命に取り組みんでいました。

一生懸命になってJ A・SSの仕事に取り組み井手君

理事会・監事会報告

■平成22年度臨時理事会

日時 平成22年6月14日午後7時/場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
- 1) 第9回通常総代会開催に伴う書面による議決権行使対応について
4. 閉会

■平成22年度第4回理事会

日時 平成22年6月21日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
- 5月月末実績について
- 1) 第9回通常総代会の開催について
- 2) 就業規則の改正について
- 3) 育児休業規程の改正について
- 4) 臨時職員就業規則の改正について
- 5) 独立監査人の監査報告書について
- 6) 平成21年度決算監査概要書内部統制等に関する改善指示書について
- 7) 役員賠償責任保険継続加入と保険料徴収について(案)
- 8) 平成22年度畜産近代化リース事業借受申請について
- 9) 第9回通常総代会の開催対応について

報告事項

- 1) 貸出金最終償還年齢について
- 2) JA活動総合3カ年計画(平成19年度～平成21年度)実績報告について
- 3) JA阿蘇経営事業改革に伴う経営改善報告(22年3月末)について
- 4) JA阿蘇経営事業改革に伴う経営改善の平成22年度計画書について
- 5) 平成22年度 非常勤理事研修「事業戦略コース」の開催について
- 6) 平成22年度 非常勤理事研修「経営戦略コース・販売戦略コース」の開催について
- 7) 販路給油所廃止について
- 8) 出資の減口対応について
- 9) 7月の理事会開催について
- 10) 平成20年産米の最終精算について
- 11) 農政連阿蘇総支部組織討議結果報告について
- 12) 農業祭の開催について
4. 閉会

■平成22年度第5回理事会

日時 平成22年7月6日午後1時30分/場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
- 1) 業務報告書の行政庁への提出について
- 2) 事業のご案内2010について
- 3) 事業のご案内2010(ミニディスクロージャー誌)について
- 4) 平成23年度JA阿蘇職員募集について
- 5) 平成22年度役員報酬について
- 6) 給与規程の改正(案)について
- 7) 職業紹介事業(外国人研修生)について

8) 平成22年産米出荷契約金について

9) 職員夏期賞与支給について

報告事項

- 1) 平成22年度座談会開催状況について
- 2) 口蹄疫対策募金活動の募金状況について
- 3) 余裕金運用について
4. 閉会

■平成22年度第6回理事会

日時 平成22年7月28日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
 2. 組合長挨拶
 3. 協議事項
 - 6月末実績について
 - 1) 熊本県農業信用基金協会への出資(増資)について
 - 2) 農産物検査業務規程の一部改正について
 - 3) 支所管理規程の改正について
 - 4) 平成21年度決算監事監査目審査書(案)について
 - 5) 平成21年度決算全国監査機構期末監査回答書(案)について
 - 6) 貸出金について
- 報告事項
- 1) 平成22年度米麦等租卸実施について
 - 2) 全国監査機構期中監査実施計画書について
 4. 閉会

●平成22年度第3回監事会

日時 平成22年7月6(火)午後3時30分

場所 一の宮中央支所小会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
- 1) 平成22年度役員報酬について
- 2) 平成22年度熊本県常例検査立会いについて
- 3) 平成22年度米麦等租卸監事監査について
- 4) その他
4. 閉会

●平成22年度第4回監事会

日時 平成22年8月2(月)午後1時30分/場所 本所 2階第1会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
- 1) 平成21年度決算事務監事監査回答書について
- 2) JAバンク基本方針に基づく「敬税状況に関する事項の報告」について
- 3) 平成21年度決算全国監査機構期末監査回答書について
- 4) 監事研修会について
- 5) ハウスリースの調査の取り纏めについて
- 6) その他
- ①平成22年度全国監査機構期中監査実施について
- ②平成22年度全国監査機構監査計画概要について
- ③平成22年度米麦等租卸監事監査について
- ④JA非常勤役員研修会について
4. 閉会

現金自動貯金支払機(ATM)新設のお知らせ

平成22年8月2日(月)より、下記設置場所で稼働しています。
皆様のご利用を心よりお待ちしております。

設置場所	稼働時間		
	平日	土曜	日曜・祝日
波野神楽苑	8:45 ~19:00	9:00 ~18:00	9:00 ~18:00
馬見原支所	8:45 ~19:00	9:00 ~18:00	休業
奥阿蘇物産館(草部)	8:45 ~19:00	9:00 ~18:00	休業
野尻支所	8:45 ~19:00	9:00 ~18:00	休業



写真＝波野神楽苑でのATM開通式

※詳しいお問い合わせは、最寄の支所へ
お問い合わせください。

JA阿蘇

平成23年度 JA阿蘇職員募集

1. 申込書類受付期間

◎高卒新規(平成23年3月卒業見込み)… 学校を通じて申し込みをして下さい。
平成22年9月5日から平成22年9月8日まで

◎高卒(既卒)・短大卒・大学卒 …………… 直接JA阿蘇本所に申し込みして下さい。
平成22年7月15日から平成22年9月8日まで

2. 試験日(一次試験) 平成22年9月16日(木)

3. 募集要領の配布 JA阿蘇本所総務部総務人事課および
各中央支所で配布します。

問い合わせ先

JA阿蘇本所 総務部総務人事課(担当)馬場・工藤
(電話)0967-22-6111

